

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>プロジェクト目標は「4館の図書館・学習センター利用者の生活の質が改善し、53校の公立学校において教育の質が改善している」である。これらの目標は達成されていない。したがって上位目標である「対象地域の住民の生活の質が改善し、児童・生徒の学習達成度が改善している」も発現していない。</p> <p>1年次の目標「1館の図書館・学習センターの施設が建設・開館し、1年生から5年生までの教員用手引き、児童用教材が開発され53校の校長と教員が児童中心の教授法についての研修を受けている」については、コロナ禍のために図書館・学習センターの施設建設が遅れ80%完了した。1年生から5年生までの教員用手引き、児童用教材は開発され53校の校長と教員が児童中心の教授法についての研修を受けた。ただしコロナ禍の影響により、幼児クラス教員の研修は2年次に実施することになった。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>【成果/活動1～3: 図書館・学習センター改善活動】</p> <p>1. 耐震構造の図書館施設の建設</p> <p>●対象地域：ラリトプール郡図書館・学習センター1館</p> <p>1-1. 図書館・学習センター建設の準備を行った。</p> <p>1-2. 図書館・学習センターの建設が80%完了した。コロナ禍のため4月下旬にロックダウンが施行されたため、工事が3カ月間中断したため、完成にはいたらず、2年次6月に完成することになった。しかしながらN連支援額分の80%の建設は完了した。建設費の20%は自治体と住民が負担する。</p> <p>1-3. 上記の建設の遅れのため、予定していた施設内の各セクションの資機材を供与し、内装を整備する、は完了しなかった。2年次に完了する。</p> <p>1-4. 上記により竣工式の開催は2年次に実施する。</p> <p>●対象地域：シャンジャ郡、ソルクンプ郡、マホタリ郡の図書館・学習センター3館</p> <p>1-1. 図書館・学習センター建設の準備を行った。マホタリ郡の図書館・学習センターについては、土地提供者である現地NGOが別の目的のために土地を利用することになり、他の代替地を確保することもできなかったため、ニーズの高い他の図書館建設候補地の調査を行い、事業地をスンサリ郡スナウロ図書館に変更した。他の2館は予定通り、各種の準備（建設用地の土壌テスト、サイトプラン、図書館設計図の作成、設計図の自治体承認取り付け、地域住民や関係者に対するオリエンテーション）を実施した。</p> <p>2. 図書館・学習センターの運営能力強化と利用者の能力向上</p> <p>●対象地域：ラリトプール郡図書館・学習センター1館</p> <p>2-1. 事業開始前の図書館対象地域の住民の①識字能力、②収入、③女性および若者のエンパワメント研修参加者のリーダーシップ能力、④情報へのアクセスについてのベースライン調査を実施した。</p> <p>2-2. 図書館運営委員会の運営能力を向上するために、①住民組織化研修、②組織強化・グッドガバナンス研修、③財務・会計管理研修を実施した。</p> <p>2-3. 自立運営のための収益事業立上げ計画立案研修を実施した。</p> <p>2-4. 図書館員研修は、施設建設、図書館各セクション整備の遅れのため2年次に延期した。</p>

	<p>3. コミュニティ図書館に関する政策提言活動</p> <p>3-1. コミュニティ図書館全国調査はコロナ禍、ロックダウンのため、2年次に延期した。</p> <p>3-2. 全国調査結果を発表するための会合も上記に伴い2年次に延期した。</p> <p>【成果/活動4~7: 教員の教授法改善活動】</p> <p>●対象地域：マクワンプル郡ラクシラン農村自治体</p> <p>4. 教員の能力強化</p> <p>4-1. 校長・教員へ児童中心の教授法研修を計画通り、校長研修を2クラスターで2日間ずつ実施し、計51名が参加した。1年生から5年生のローカル・サブジェクトの担当教員研修を4クラスターで5日間ずつ、実施し95名が実施した。この研修には図書コーナー活用法も含めた。</p> <p>5. 学習環境の整備</p> <p>5-1. 幼児クラス教員向けの図書コーナー活用法研修はコロナ禍のため2年次に延期した。</p> <p>5-2. 日本から紙芝居専門家の派遣ができないため、作家、イラストレーター、編集者を対象にした紙芝居制作研修は2年次に延期した。</p> <p>5-2. 栄養をテーマに2タイトル、各150部の紙芝居を制作し配布した。自己資金にて実施。また紙芝居が効果的に演じられたために紙芝居舞台を制作し、提供した。</p> <p>6. 教員の手引き、児童用教材の開発</p> <p>6-1. ローカル・サブジェクト開発委員会の編成と会合を開催した。</p> <p>6-2. 学習ニーズ・資源を明確化するためのワークショップを開催した。</p> <p>6-3. ローカル・カリキュラ開発ワークショップを行い、教員向け手引書を開発した。</p> <p>6-4. 1年生~5年生向けの児童向け教科書開発ワークショップを行い、教科書を制作した。</p>
(3) 達成された成果	<p>【図書館・学習センター改善活動】</p> <p><u>成果1 耐震構造の図書館・学習センターが建設されている</u></p> <p>指標1:</p> <p>① 竣工した図書館の数：1館の80%が完成</p> <p>② 建設された図書館・学習センターの利用者数：開館前のため未達成。</p> <p><u>成果2 図書館・学習センターの運営能力が強化され、利用者(女性、若者を含む)の生活の質の改善に向けた能力が高まる</u></p> <p>指標:</p> <p>① 1館の図書館運営委員会の図書館運営に対する理解度が40%から80%に向上する。</p> <p>結果：①財務・会計管理研修、②住民組織化研修、③自立運営事業研修(自己資金で実施)、④組織強化・グッドガバナンス研修、の終了時に実施した質問紙調査結果は、下記の通りで、住民組織化研修以外は、目標値を達成している。理解度の低かった住民組織化能力は、今後地域で実施していく生活向上グループの組織化と研修活動を通じて参加者であるボランティアの能力を高めていく。</p>

	参加者数	理解度
財務・会計管理研修	15	84%
住民組織化研修	31	40%
自立運営事業研修	30	78%
織強化・グッドガバ ナンス研修	30	90%

- ② サービスが適切に実践できる図書館員および図書館ボランティアの数：研修未実施のため未達成。

成果 3 コミュニティ図書館に関する政策を改善するための政策提言活動が強化されている

指標：

- ① コミュニティ図書館全国調査報告書：未実施。

【教員の教授法改善活動】

成果 4：教員が児童中心の授業を実践するための知識と技能を習得している

指標：

- ① 研修を受けた教員のうち知識と技能を習得した教員の割合：
1年目：

- ① 1年生から5年生までの研修参加者教員の内、授業実践に必要な知識と技能を習得している教員が 0%⇒80%に増加する。（指標数値根拠： ベースライン数値の根拠は同自治体ではこの教員研修が過去に実施されていないため。エンドライン数値の根拠はこの教員研修の他地域での過去の実績に基づく。）

参加教員に対する研修後の質問紙調査結果は以下の通りであった。1-4点の4件法で、全くあてはまらない=1点、どちらかといえばあてはまらない=2点、あてはまる=3点、とてもあてはまる=4点で各質問に対する回答を得た。データは平均値を示す。（ ）は4件法によるデータを100%に換算した数字である。児童中心の授業を実践するための知識、技能を88%以上の教員が有している。

児童中心の授業を実践することができる	ローカル・サブジェクトについての適切な知識を有している	ローカル・サブジェクトの授業をしたい	ローカル・サブジェクトを適切に教えることができる	全質問の平均
3.5 (88%)	3.7 (93%)	3.8 (95%)	3.7 (93%)	3.6 (91%)

成果 5：児童中心型の学びを促す環境が整備されている

指標：

- ① 研修を受けた教員のうち図書コーナー活用についての知識と技能を習得した教員の割合
② 研修を受けた作家、イラストレーター、編集者のうち、紙芝居制作についての知識と技能を習得した参加者の割合：未実施

1年目：

- ① 研修参加教員のうち、図書コーナー活用についての知識と技能を習得した教員が0%⇒80%に増加する。（指標数値根拠： ベースライン数値の根拠は図書コーナー活用についての研修が同自治体で過

	<p>去に行われていないため。エンドライン数値の根拠は、当事務所の現行事業で同様の活動を行っているのであるが、その実績数値に基づく。）</p> <p>参加教員に対する研修後の質問紙調査結果は以下の通りであった。1-4点の4件法で、全くあてはまらない=1点、どちらかといえばあてはまらない=2点、あてはまる=3点、とてもあてはまる=4点で各質問に対する回答を得た。データは平均値を示す。()は4件法によるデータを100%に換算した数字である。図書コーナー活用に必要な知識、技能を91%以上の教員が有している。</p> <table border="1" data-bbox="592 533 1474 728"> <tr> <td>紙芝居を適切に演じることができる。</td> <td>図書コーナーを適切に管理することができる。</td> <td>児童に絵本の読み聞かせをしたい</td> <td>絵本の読み聞かせを適切に実践できる</td> <td>全質問の平均</td> </tr> <tr> <td>3.6(91%)</td> <td>3.8(95%)</td> <td>3.7(93%)</td> <td>3.9(98%)</td> <td>3.8(94%)</td> </tr> </table> <p>成果6：児童中心の教授型の教授法を取り入れたローカル・サブジェクトの教材が開発されている</p> <p>指標： ① 開発された教員用手引き、児童用教材の開発：両者とも開発、発行済。</p>	紙芝居を適切に演じることができる。	図書コーナーを適切に管理することができる。	児童に絵本の読み聞かせをしたい	絵本の読み聞かせを適切に実践できる	全質問の平均	3.6(91%)	3.8(95%)	3.7(93%)	3.9(98%)	3.8(94%)
紙芝居を適切に演じることができる。	図書コーナーを適切に管理することができる。	児童に絵本の読み聞かせをしたい	絵本の読み聞かせを適切に実践できる	全質問の平均							
3.6(91%)	3.8(95%)	3.7(93%)	3.9(98%)	3.8(94%)							
(4) 持続発展性	<p>図書館・学習センター改善活動は、対象4館の図書館運営委員会が図書館・学習センターを自立運営する。財政は、本事業が立ち上げを支援する収益事業による収入、自治体からの補助金によって確保する。図書館運営に必要な知識、技能は、本事業による同委員会および図書館員に対する研修によって習得される。図書館・学習センターに関する政策を改善するための政策提言活動は、本活動のパートナー団体であるREAD Nepal およびネパール図書館協会が引き継ぐ。</p> <p>教員の教授法改善活動は、対象地域の地方行政機関であるラクシラン村落自治体が引き継ぐ。1年次に開発した教材を利用した児童を中心とした教授法をすべての学校で実施することを決定する。3年次に翌会計年度の必要な予算を確保するとともに、児童中心の教授法を普及のための人員体制を確保する。また、同課の職員および学校指導主事が教員研修を行う能力を習得する。本事業の実践例は全国会議で共有する。</p> <p>ただしこれらの持続発展性を確保するための成果は1年次終了時点では発現していない。</p>										